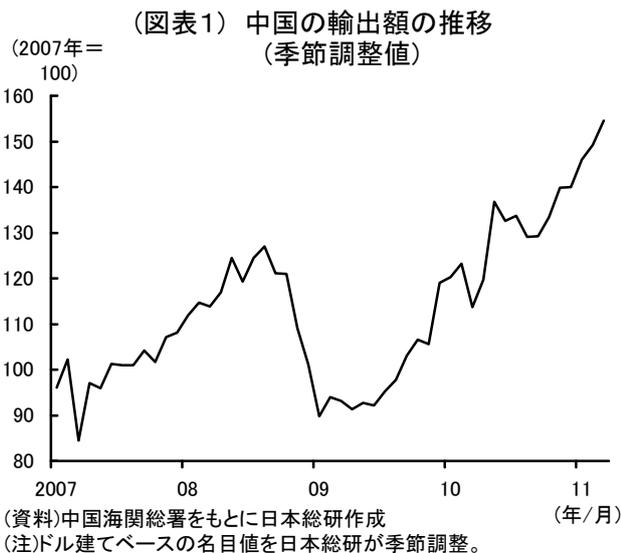


変わる中国の輸出構造 ～新興国向け、高付加価値製品が中心に～

- (1) 中国の輸出は堅調に拡大。輸出額は金融危機前を大きく上回る水準(図表1)。
- (2) 牽引役は新興国向け。新興国の高い経済成長を背景に、OECD非加盟国向け輸出額は2005年から2010年にかけて2.3倍に増加。その寄与度はOECD加盟国向けを上回る57.4%(図表2)。とりわけ、BRICS向けの拡大が顕著。
- (3) 新興国向け輸出の特徴は、工作機械や建設機械など産業機械のシェアが大きい点。2010年のブラジル向けに占める産業機械のシェアは全体の同23.2%を上回る28.0%(図表3)。
- (4) こうした動きは、中国の輸出産業が高付加価値化を進めていることを示唆。従来、中国の輸出は国内付加価値が低い先進国向け加工貿易が主。もともと、加工貿易のシェアは低下傾向(図表4)。代わって、部品の国内調達拡大、製造技術の高度化などを通じて高付加価値製品の競争力を高め、新興国市場での足場を急拡大。



(図表2) 中国の地域別輸出額の寄与度分解

	2005年 億ドル	2010年 億ドル	伸び率 %	寄与度 %
世界	7,623	15,784	107.1	107.1
OECD加盟国	4,320	8,106	87.7	49.7
OECD非加盟国	3,304	7,679	132.4	57.4
BRICS	308	1,058	243.5	9.8

(資料)中国海関総署をもとに日本総研作成

(図表3) 中国の品目別輸出割合 (2010年)

	ブラジル向け	世界向け
繊維・玩具類	14.1	21.0
電気機械	23.4	24.6
産業用機械	28.0	23.2
輸送機械	5.2	5.6
その他	29.3	25.6
全品目	100.0	100.0

(資料)中国海関統計をもとに日本総研作成

